

「グローバル時代における国民の相互理解」

宇都宮大学国際研究科は、一般市民のみなさんに大学院の授業を公開します。今回の講義は、日本を取り巻く国際関係やグローバル環境の変化に対し、各教員の独自の視点を提示しながら、国際的・学際的に検証する試みです。具体的には、アフリカやタイ、ブラジル、ペルーなどの地域社会に対する理解、日韓関係、日中関係について各教授が独自の視点を提示します。どなたでも受講できますので、専門家の思索とはどのようなものなのかを、ぜひその目で確かめてください。

第1回

10月5日(土) 14:00~16:00 場所:基盤教育D棟3階1343教室
阪本公美子 准教授 「アフリカをどう理解するか」

第2回

10月12日(土) 14:00~16:00 場所:基盤教育D棟3階1343教室
佐々木史郎 教授 「日韓相互理解のやさしさと難しさ」

第3回

10月19日(土) 14:00~16:00 場所:基盤教育D棟3階1343教室
マリー・ケオマノータム 教授 「地域社会を考えるー日本とタイの比較をととして」

第4回

10月26日(土) 14:00~16:00 場所:国際学部A棟4階大会議室
今井 直 教授 「克服できない歴史認識問題の諸相」

第5回

11月2日(土) 14:00~16:00 場所:基盤教育D棟3階1343教室
スエヨシ・アナ 講師 「日本から帰国後の子供たちの行方~ブラジル・ペルーの子供たちを通して~」

第6回

11月16日(土) 14:00~16:00 場所:国際学部A棟4階大会議室
松村 史紀 講師 「東アジアのなかの日中関係」

第7回

11月30日(土) 14:00~16:00 場所:基盤教育D棟3階1343教室
倪 永茂 教授 「中国社会の面子と日本社会の世間体」

会 場

宇都宮大学（峰キャンパス） ※授業当日の教室の開場時間は13:30です。

宇都宮市峰町350

JRバス・東野バス「宇大前」、関東バス「宇都宮大学前」

※自動車でお越しの際は、正面案内所にてゲート通過用のバスカードをお受け取りください。

募集人員

50人（募集人員を超えた場合は先着順とさせていただきます。）

受講料

無 料

申込方法

「公開授業参加希望」と明記し、住所・氏名・連絡先電話番号をご記入の上、「封書」または「電子メール」にてお申し込みください。

封書でお申し込みの方は、返信用封筒・80円切手を同封してください。

申 込 先

〒321-8505 宇都宮市峰町350

宇都宮大学国際学部総務係

E-mail:koksomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

問合せ先

Tel.028-649-5164

詳細は宇都宮大学ホームページをご覧ください。

<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/>



JRバス・東野バス「宇大前」
関東バス「宇都宮大学前」

平成 25 年度 宇都宮大学大学院 国際学研究科公開授業

国際学総合研究B（国際化と日本）

「グローバル時代における国民の相互理解」

宇都宮大学国際研究科は、一般市民のみなさんに大学の授業を公開します。今回の講義は、日本を取り巻く国際関係やグローバル環境の変化に対し、各教員の独自の視点を提示しながら、国際的・学際的に検証する試みです。具体的には、アフリカやタイ、ブラジル、ペルーなどの地域社会に対する理解、日韓関係、日中関係について各教授が独自の視点を提示します。どなたでも受講できますので、専門家の思索とはどのようなものなのかを、ぜひその目で確かめて来てください。

第1回

10月 5日±

14:00~16:00

阪本公美子 准教授

場所：基盤教育D棟3階1343教室

「アフリカをどう理解するか」

「アフリカ」と聞いて何を連想しますか？アフリカとの出会いから19年、アフリカのことを日本で教える立場になり、学生をはじめとする人びとのアフリカに対する偏ったイメージに日々直面する。「貧困」「紛争」「植民地」「HIV/AIDS」といったネガティブなイメージと、「サバンナ」「砂漠」「野生動物」といったアフリカの自然のイメージと、二極化したイメージに加え、近年はアフリカの経済成長を見据えたビジネスチャンスといったイメージがあるだろう。アフリカにおける貧困、多発する紛争、植民地の歴史、エイズの蔓延、豊かな自然環境、そして最近の経済成長、どれも事実ではあるが、それだけではない。本講義では、アフリカの典型的なイメージを紹介しながら、実体に即した等身大のアフリカ理解に接近する。

第2回

10月 12日±

14:00~16:00

佐々木史郎 教授

場所：基盤教育D棟3階1343教室

「日韓相互理解のやさしさと難しさ」

韓国のTVドラマ「冬のソナタ」が日本でも放映され、大人気を博してから、今年で十年。韓国の故朴正熙大統領（現大統領・朴槿恵氏の父）が断行した日韓国交正常化（1965）に対し、当時非常に強い反発があったことを思うと、今日の交流の深まりは、まさに隔世の感がある。しかし、これだけ結びつきを強めていながらも、なにかにつけて摩擦や誤解が生じやすいのも事実。今回は、そうした日韓相互理解のやさしさと難しさについて、両国の文化的な近似性と異質性、自国内で日々接する相手国情報の量・質の違い等の面から考えていきたい。

第3回

10月 19日±

14:00~16:00

マリー・ケオマノータム 教授

場所：基盤教育D棟3階1343教室

「地域社会を考えるー日本とタイの比較をとおして」

日本は集団主義的な傾向が強いといわれ、地域社会のレベルでも日本中に全戸加入の町内会が存在しています。これに対して、タイは個人主義的な傾向が強く、町内会のような組織はないといわれてきました。しかし80年代以降、徐々に住民による地域組織が組織されてきました。では、そもそも町内会とはいかなる組織なのでしょう。タイの地域組織との共通性と違いはどこにあるのでしょうか。私たちの身近にある地域社会での住民の姿をとおして、日タイの文化の違いと相互理解について考えます。

第4回

10月 26日±

14:00~16:00

今井 直 教授

場所：国際学部A棟4階大会議室

「克服できない歴史認識問題の諸相」

「過去に目を閉ざす者は、現在にも目を閉ざす。」これは、1985年の当時西ドイツの大統領の有名な演説の一部である。この言葉はまさに、今の日本にあてはまる警鐘ではないか。「植民地支配と侵略」を謝罪した村山談話（1995年）や「慰安婦問題」への軍の関与や強制性を認めた河野談話（1993年）を、それが政府の公式見解であるにもかかわらず、否定しようとする与党を含む政治家や自治体の長の相次ぐ言動によって、国際社会から疑義の目を向けられている。国内的にも、一部の言論人や歴史教育を十分に受けていない若者たちによる過去の「正当化」論は草の根レベルでも拡がっており、国論を二分するような様相さえ呈している。こうした現在の状況をふまえて、歴史認識問題を論じる際にとるべき立場と観点を提示したい。

第5回

11月 2日±

14:00~16:00

スエヨシ・アナ 講師

場所：基盤教育D棟3階1343教室

「日本から帰国後の子供たちの行方～ブラジル・ペルーの子供たちを通して～」

南米から日本への移民現象が始まってから20年以上が経過しました。この間、南米系移民の子供たちをめぐる様々な問題が見られました。その例として、日本の教育制度に適應できないために、子供だけを帰国させることになったり、日本の不景気が原因で、両親が子供を連れて母国へ帰らざるを得なくなったりしたことが挙げられます。帰国したブラジル・ペルーの子供たちについて行った2つの調査に基づいて、かれらはどのような問題に直面したのか、かれらの帰国後の状況について共通点と相違点を分析します。

第6回

11月 16日±

14:00~16:00

松村 史紀 講師

場所：国際学部A棟4階大会議室

「東アジアのなかの日中関係」

日中関係はいま大きな危機に直面している。経済や人の交流をみれば、相互関係が進展しているようにも思えるが、領土問題、さらには歴史認識の問題をめぐっては熾烈な対立が続きまとう。この問題を理解するには、日中関係に関連する事実関係を集めるだけでは不十分だろう。この授業では、現代東アジア国際政治がどのような条件で成り立っているのかをまずは考えてみたい。その上で、日中関係の現在と未来について理解を深めたいと思う。

第7回

11月 30日±

14:00~16:00

俣 永茂 教授

場所：基盤教育D棟3階1343教室

「中国社会の面子と日本社会の世間体」

領土・領海問題等、中国と日本との間にギクシャクした関係が続いているが、両国間の価値観に共通したモノが多い。たとえば、中国人が面子に拘ると同様、日本人は世間体に気を配る。どちらも周りとの人間関係を重んじる点で共通している。しかし、自己決定の不在という意識を植え付ける世間体の役割に対して、面子は自己決定をしっかりと働かせるもので、自己中心の人間関係を可能にする。この授業では、人間関係という視点から、両国間に存在する価値観の共通点と相違点を浮き彫りにし、国民の相互理解について考えていきたい。